

北海道新幹線(新函館北斗・札幌間)札幌車両基地壁面デザイン検討会



- 北海道新幹線(新函館北斗・札幌間)で整備される札幌車両基地は、札幌駅の東方に位置し、長さは新幹線札幌駅のホーム東端部からJR苗穂駅までの約1.3km、高さは約22mの構造物となる。
- 当車両基地は市街地に位置することから、壁面のデザイン等については周囲の景観にも十分配慮する必要がある。このため、景観等に関する有識者による「札幌車両基地壁面デザイン検討会」を開催し、壁面デザインの検討の方向性やデザイン(外壁使用材料や色調等)について、助言を頂く。また、市民の意見等を反映するために実施予定のパブリックインボルブメントの手法等についても助言を頂く。

(1) 委員等

(委員:五十音順)

- 小澤 丈夫 北海道大学大学院工学研究院教授
(座長) (専門)建築設計、建築史、建築意匠
- 笠間 聡 国立研究開発法人土木研究所寒地土木研究所
地域景観チーム主任研究員
(専門)土木デザイン、景観まちづくり
- 鈴木 聡士 北海学園大学工学部教授
(専門)都市計画、交通計画、地域づくり

(関係機関)

- 北海道
- 札幌市
- JR北海道

(事務局)

鉄道・運輸機構

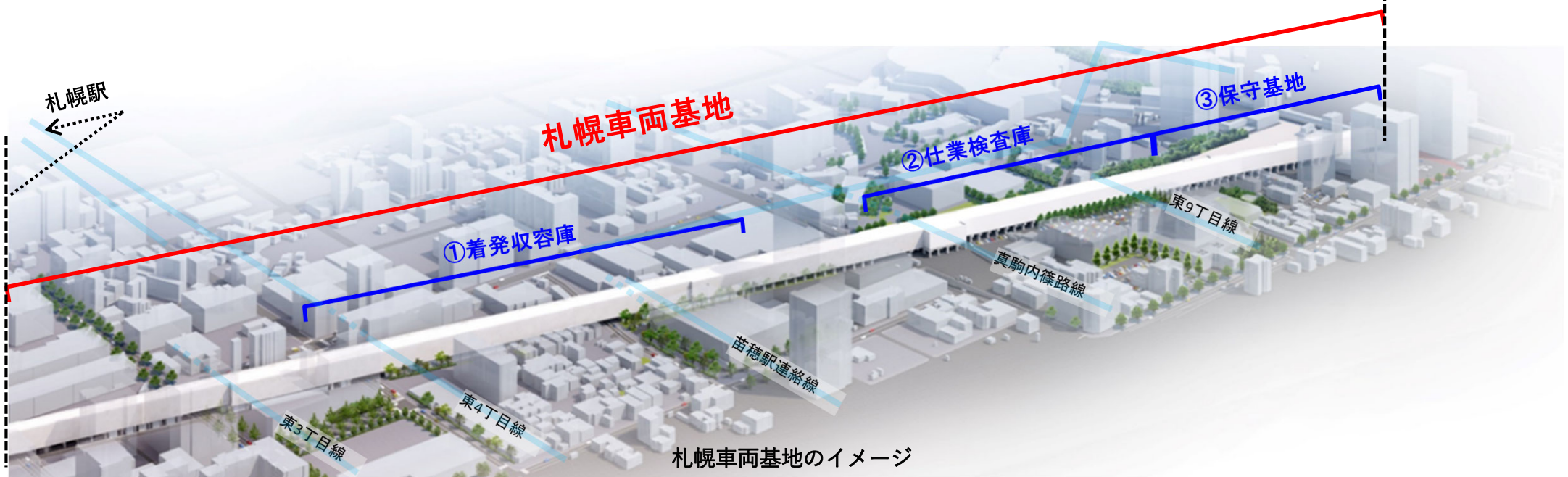
(2) 検討・報告内容

- デザインするにあたっての検討事項
- デザインの制約条件
- デザイン検討の方向性
- PI(パブリック・インボルブメント)の手法
- デザイン案への助言

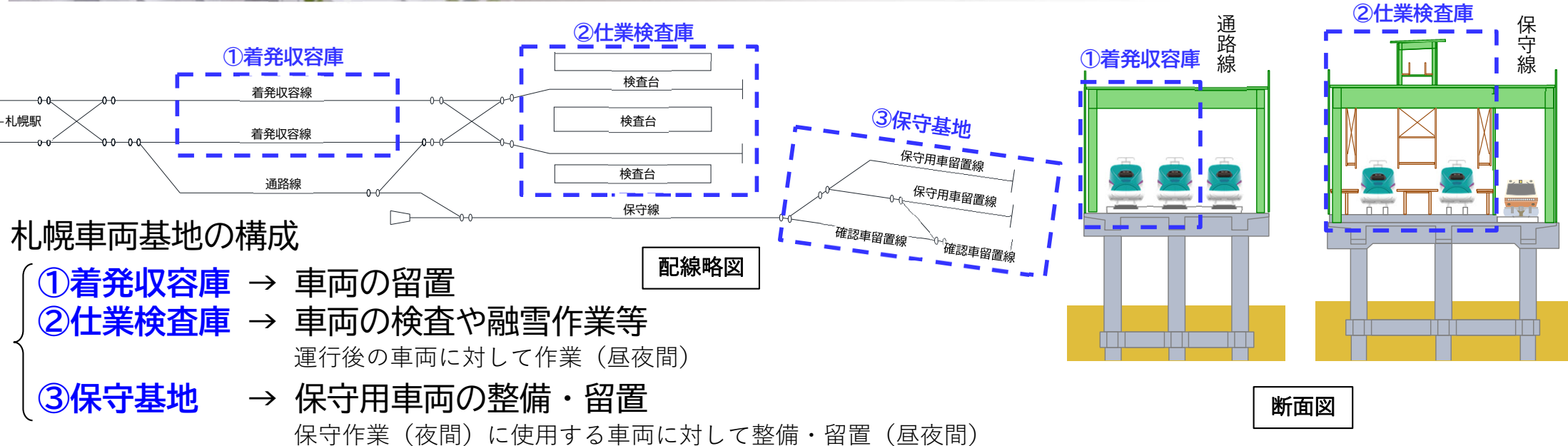
(3) スケジュール

- 検討会については概ね3回実施する予定
- デザイン決定までの間に市民のご意見を伺う機会を設定する予定
- デザインはR6年度内を目途に決定する予定

札幌車両基地の概要



札幌車両基地のイメージ



※札幌車両基地では仕業検査のみを行う。その他、台車・車輪など車両の主要部分を取り外して総合的に調べる大規模な検査などは函館総合車両基地にて行う。

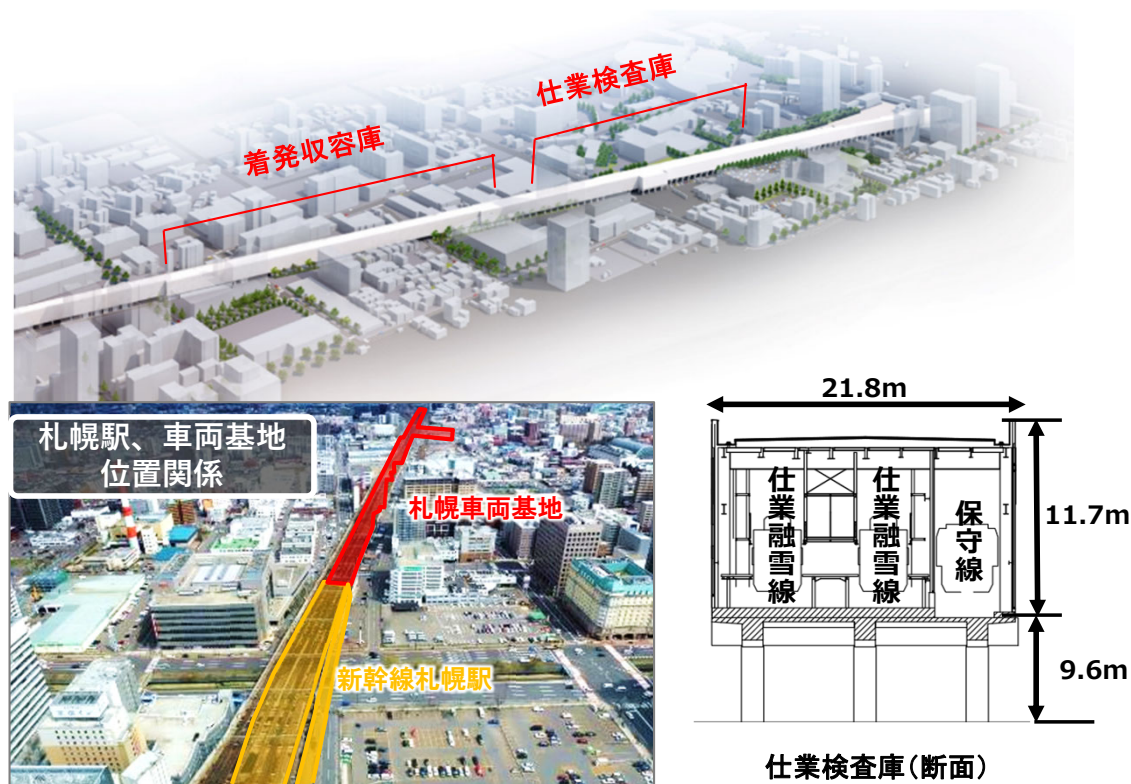
札幌車両基地の位置



札幌車両基地の特徴

○札幌車両基地

- ・新幹線駅に近接しており、都市部で高架構造で立地
- ・用地の制約上、着発収容庫、仕業検査庫などを線路方向に直列に整備



○他の新幹線車両基地

- ・新幹線駅から離れた郊外に平面構造で立地
- ・着発収容庫、仕業検査庫などの主要構造物は並列に整備することが多い



デザインの方向性

デザインするにあたっての検討事項

- ① 周囲からの視認性と人々の暮らしや活動を意識したデザインを検討
- ② 大きな構造物であることを認識した上で、周辺の市街地環境と調和するようなデザイン
- ③ 隣接する新幹線札幌駅との連続性への配慮

+

デザインの制約条件

- ① 『構造』 : 荷重の制約 外壁面の凹凸 EXP.J
- ② 『運用』 : 防音性能 遮光性能 断熱性能 斜路
- ③ 『敷地』 : 狭隘な敷地
- ④ 『安全』 : 排煙スリット 排煙窓



目指すデザインの方向性

上記の制約条件を踏まえた上で、
周辺の市街地環境と調和したデザイン

札幌車両基地における視認性の高い箇所イメージ



I 札幌厚生病院前（南面）



II 苗穂駅連絡通付近（北面）



III 在来線（北面）



IV 東2丁目線（南面）

※検討会を行う前時点のイメージです

